

秋経協・二水会第118回(2月)例会

令和7年春季労使交渉・協議対策 講演会

「付加価値最大化」と「人への投資」の好循環の加速



2月14日、秋経協・二水会の第118回(2月)例会が秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開かれ、瀧澤労務対策委員長、秋経協会員の参加も得て36名が出席し、「令和7年春季労使交渉・協議対策」をテーマに講演会が開催された。

講演に先立ち広島代表幹事が挨拶し、「自社では酒米の高騰で仕入コストが大幅に増加している。各企業も原材料費などの上昇により厳しい収益状況にある中で、人手不足もあり賃上げに取り組んでいくものと推察されますことから、本日の講演を聴講し、今後の労使交渉に是非とも活用いただきたい。」と述べた。

続く講演では、経団連の労働政策本部 上席主幹 山田佑氏が「2025年版経営労働政策特別委員会報告」(経労委報告)に沿って解説した。はじめに「『付加価値の最大化』と『人への投資』の好循環を加速させ、賃上げのモメンタムの定着に取り組んでいく」とした経団連の決意に言及した後、第1部「生産性の改善・向上に資する『多様な人材』活躍推進と『人への投資』強化」、第2部「2025年春季労使交渉・協議における経営側の基本スタンス」の順にポイントを詳述いただいた。最後に、賃金引上げと総合的な処遇改善を「人への投資」として明確に位置づけた「賃金・処遇決定の大原則」に則った積極的な検討と実行を呼びかけ、講演を締めくくった。

講演終了後に情報交換会が行われ、講師も交えて活発に意見交換を行った。



講師 経団連 山田佑氏